

D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N° 72 mai 2005 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

2005年度総会とパリ祭は7月10日に

ゲストに奈良日仏協会・坂本副会長（奈良交通社長・三重県出身）

三重日仏協会2005年度の定例総会を7月10日（日）午後、津市のプラザ洞津で開催します。今回は役員改選の年でもあり、多くの会員のご出席による審議を期待します。またそれに続く恒例のパリ祭パーティに先立ち、三重県津市ご出身で現在奈良交通社長の坂本成彦氏を迎えてスピーチをお願いします。坂本氏はかつて近畿日本鉄道に奉職中、フランスに滞在して現地の鉄道事情を研究された経験があるフランス通で、奈良日仏協会の副会長もつとめておられます。「日仏乗り物事情」（仮題）を中心に興味深いよもやま話をお聞かせいただきたいとお願いしてあります。ぜひご来聴ください。

*なお、総会とパーティの開始時間等、詳細は追って郵送でお知らせします。

サンジャック（サンチャゴ・デ・コンポステラ）巡礼の旅は9月1日出発

往時のフランス・キリスト教徒たちの巡礼の旅をしのぶ「熊野古道の世界遺産登録記念」サンジャック巡礼の旅（前号で予告）は、徒歩でピレネー山脈を越える「熊野古道健脚チーム」が中心で旅行計画をねってきましたが、やっと大筋が固まりました。それによりますと、出発は9月1日（木）名古屋発、同日中にパリからボルドーに入ります。2日に健脚チームは南下してピレネーのふもとのサンジャン・ピエ・ド・ポールに一泊、翌3日から峠越えの巡礼の旅に。5日の午後、スペイン側のふもとの町パンプローナ着。ここで「乗り物利用チーム」と合流します。6日、大西洋岸の町ビルバオへ。7日、空路サンジャック詣で。8日、パリ経由で帰路に。9日、名古屋着。

現在、「乗り物チーム」の前半（ボルドー到着以後）の計画を検討中で費用も含めて詳細は未定ですが、この旅行に多少でも関心をお持ちの方は早めに声を上げてください。ご要望も入れるかたちで計画をつめていきたいと思ひます。井土または滝沢まで。

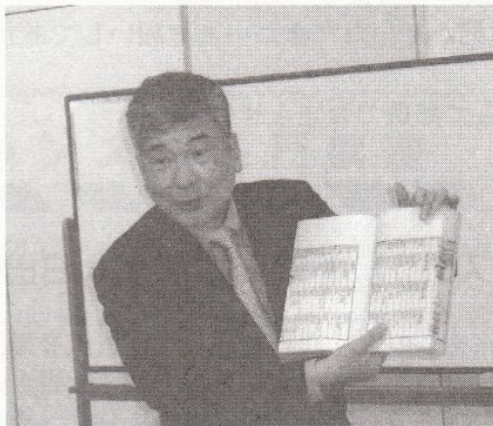
3 / 27

柏木隆雄先生のフランス文化講演会

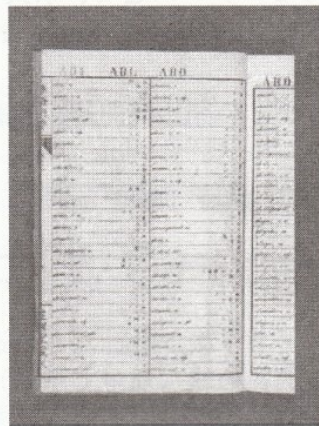
洋学の系譜

日本人はどのようにフランスを知ったのか？

毎年継続的にお願いしている柏木隆雄先生（大阪大学教授＝フランス文学・松阪市出身）の講演会、今回はこのところ続けてきたフランス近代の大家たちについてのお話から離れ、鎖国の江戸時代から明治初年にかけて日本人がどのように西欧の事情、とりわけフランスやフランス語にふれていったかについて、新井白石から福沢諭吉にいたるさまざまな文献をもとに、一部はその実物も示しながらお話しいただきました。会員以外の方も含めて約30人が参加、熱心に講演を聴くとともに、先生ご持参の貴重な書籍・「三語便覧」（1853年・村上英俊著、日本で最初の英語・フランス語・オランダ語単語集）や「仏語明要」（1864年・村上英俊著、日本で最初の仏和辞典）を手にとり見て見ることができました。いずれも和紙に版木で印刷したのですが、いまもまったく傷んでおらず、細密な筆記体の横文字がはっきり読めることに驚きの声が出ていました。講演のあと、質疑応答となりましたが、そのなかで「次にはぜひフランス人がどのように日本を知ったかを教えていただきたい」という要望が出され、柏木先生も来年でも機会があればお話したいと答えられました。



柏木隆雄氏、実物の文献を示しながら



「仏語明要」左綴じに注意

◎ 出版案内 ◎

「刀と筆、日本の中のもうひとつのフランス 1887～1960」

出版：在日フランス商工会議所 著者：クリスチアン・ポラック
「日仏交流の歴史」シリーズの第2弾として今年11月初旬発行予定の豪華本です。

1冊6,000円ですが注文数が増えると割引があります。詳細は在日フランス商工会議所・セシル・ポレさんまで。

03-3228-9633 e-m:pub@ccifj.or.jp

◇◇◇フランスに生きる三重県人 (VIII)

今回は、パリ17区モアヌ街で<MIYAKO IMMOBILIER>という不動産会社を経営しておられる小菅ヴォルヨン暁子さん（亀山市出身）に興味深い随想をよせていただきました。

フランス語は難しい？ -日本人のための意外な上達法- 小菅ヴォルヨン暁子

パリで主に日本人のお客様を対象に仕事をさせて頂いていると、実に様々なパリへの「不満」を聞かせて頂く機会が多い。その中で、性別年齢を問わず一番多いのが「フランス語の会話力が上達しない、通じない」という事である。

学校では文法しか習えない、話す機会が無い、周りに日本人が多い、等定番の理由に併せて、極端な例では「フランス人に発音を笑われた」「通じなくてお店で無視された」「馬鹿にされている気がする」等、過大ストレスになりかねない様な状況もある様で、改めてフランス人の忍耐力の無さに呆れてしまう。

フランス人の忍耐力の無さに関する論議は別の機会とし、日本人の会話力に関しては、フランス語の発音の難しさや文法の複雑さよりも、日本人が「話す」という行為に慣れていない事が一番の原因であると思う。ご存知の様に、フランスは黙っている人は無視される社会である。相手の意見を拝聴しながら、それに対して自分の思う事を簡潔に主張する事が大切である。しかしその段階に達するには何より、話し相手を見つける事、先ず自分に興味を持ってもらう事から始めなければならない。

とは言っても、日本の社会で教育を受けた日本人にとって、フランス人と会話の糸口を見つけ出す事、話し相手となるフランス人を見つける事、はパリでは決して容易ではない。ではどうすれば良いか？私が思うには、方法は2つある。第一の方法は自分の得意分野を話せる様に徹底して準備する事、そして第二は、最初から日本に興味を持つフランス人をターゲットにする事だ。

先ず、第一の方法であるが、何も趣味が無い、何にも興味が無い、と言う人はまず存在しないだろう。高尚な趣味である必要はないし、日本的な遊芸である必要も無い。逆にヨーロッパ文化をベースにした趣味であれば、日本人がそれを嗜んでいる事に感心してくれる。兎に角、何でも良いので、自分が興味ある事をフランス語で表現出来る様、辞書等を駆使して予め準備しておく。質問されても良い様に、その分野に関する最新の情報を収集しておく事も大切だ。自分が興味がある事であれば積極的にになれるし、その分野での専門用語がフランス語で何と言うのか、等を調べていくのはとても楽しい事だと思う。

後は、誰彼構わずその話題を話し始めること。発音や文法がおかしくても、話に内容があれば、必ずきっかけが出来、聞き手は間違った発音等も直してくれるはずだ。運良くその分野の専門家や興味を持つ人に会えれば、より一層世界は広がる。

私も、フランス語を覚えたての頃、自分の学術的な専門分野や、好きな着物の事等を、バスや地下鉄の中で目が合った人（勿論人は選んだが！）、商店の店先、クリニックの待合室、美容院等で兎に角話した。そのお陰で、語彙力と表現力が飛躍的に伸びたものだ。

第二の方法で一番簡単なのは、日本の武道、遊芸等を教える教室、クラブ等に参加する事である。フランス、特にパリではそういった教室/クラブは無数にある。

日本人がそういった所へ出現するのは少々恥ずかしいかもしれないが、日本人が日本の文化に精通していないのはフランスでは有名なので（！）、何も臆することはない。その様な趣味を持つフランス人は、日本人や日本の文化にも非常に興味を持っているので、日本人と話せる機会が出来る事を喜び、積極的に話しかけてくれるはずである。

共通の話題が初めから存在し、又日本人である事が有利な環境の中では、リラックスして話せるし、フランス人たちも忍耐力を持って話を聞いてくれる。事実、弊社のお客様で、この方法を実践し、見違えるほど会話力が上達した方が何人かおられる。但し、日本武道/遊芸を学ぶフランス人の中には大変な日本通もいるので、質問などされたら決して知ったかぶりほしないこと。「今度会うまでに調べておきます」と言って、その結果を教えてあげればとても喜ばれるし、自分の勉強にもなる。

フランスでの「会話力」は、発音や文法の正確さだけではない。自分に興味を引きつける事、そして「内容」が何より大切なのである。そういった側面から勉強していく事は、フランス語に限らず、全ての外国語学習に必要な事ではないだろうか。



2/19

Campagne (カンパーニュ) で伊勢例会

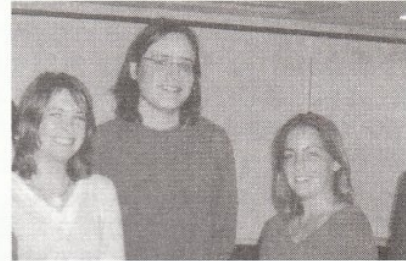
久しぶりの伊勢例会は、伊勢市勢田町のレストラン<Campagne>での美食会。伊勢支部の伊藤雅人さんを中心に、会員外のゲストも含めて十人余が参加、旬の素材を生かした料理と各種の美酒を楽しみ大いに語り合いました。

4/23(土)

フランスからの研修生、留学生歓迎会 (四日市)

今年も四日市近鉄百貨店に1名、三重大学に2名、フランスの若者が企業研修や研究のため訪れております。

ヴィルジニー・シャラブレス Virginie CHALABREYSSEさん(近鉄)、エミー・ドゥニエ Amy DENIERさん、ベルトラン・シャル Bertrand SCHAAL君(以上三重大学)で、いずれもリヨン大学から。彼らを歓迎する催しが四日市支部例会のかたちで4月23日夜、同市鶴の森にあるワインバー<ボア・デ・コルモラン>で開かれ、四日市の会員を中心に20数人が集まってラクレットをつつきながら話し合い親睦を深めました。



左からヴィルジニーさん、ベルトラン君、エミーさん

読書会 次のテキストはSAINT-EXUPÉRY<VOL DE NUIT>

毎月1回有志で続けているフランスの文学書を原典で読む読書会は、5月でドーズの「風車小屋だより」を終えて、6月からサンテクジュペリの有名な<VOL DE NUIT>「夜間飛行」(抜粋)を読むことになりました。先生なしで、はなはだあやふやな勉強会ですが、甲論乙駁しながらゆっくりと文学作品の味を楽しんでいます。参加ご希望の方は井土まで。

2005年度初夏 フランス語入門講座

今年度のフランス語入門講座は例年より少し遅れて6月6日から始まります。講師はおなじみのパリジャン、ジャン・フランソワ・ダメム先生。フランス語を始めてみたい方、以前学んだフランス語をもう一度やり直したい方、フランスに旅行する方など、会員の方もふるって受講してください。

日 時 6月6日(月)より毎週月曜日、全8回
場 所 津駅前・第一ビル 6階
講 師 Jean-François DAMÈME (三重大学人文学部講師)
参加費 三重日仏協会会員 8,000円
一 般 10,000円

お問い合わせ、申し込みは：

滝 沢 059-225-2517 (夜間)

長 嶋 090-1720-9960 (夜間)

ダメム 0598-26-7170

または ホームページ

<http://www1.mint.or.jp/~sfjmie> まで